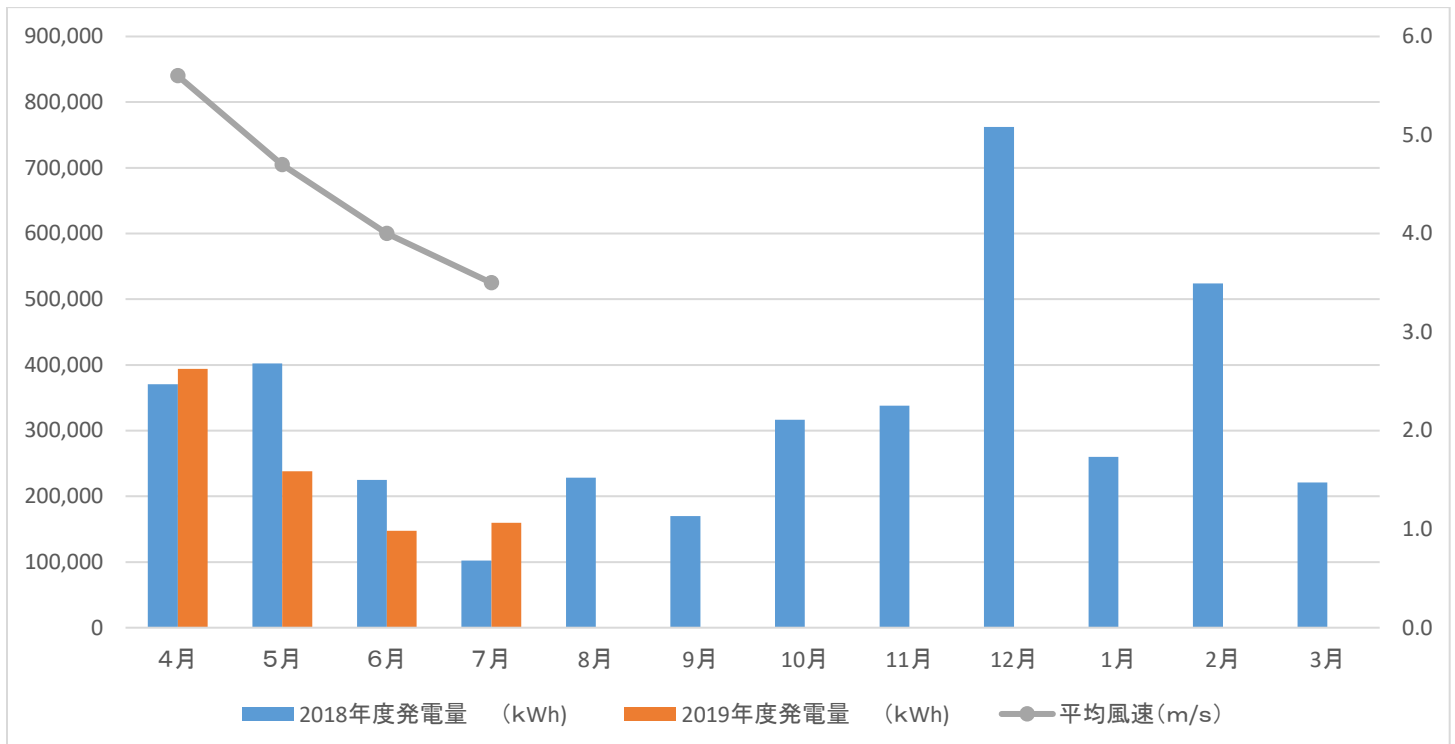


秋田県にかほ市に生活クラブ東京・神奈川・埼玉・千葉が建設した生活クラブ風車「夢風」に関するニュースをお届けします。

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町1-6-9 大内ビル3F 一般社団法人グリーンファンド秋田

発行責任者 半澤彰浩(代表理事) 編集責任者 鈴木伸予

## ○ 発電実績



## 7月度運転状況について

- 風況は前年同月より0.2m/s低い実績でした。
- 昨年はブレード補修を5日間行ったことと、東北電力からの要請による解列が4日あり風車の稼働率が低かった為、発電量は前年同月比156.5%と高くなりました。

	発電量 (kWh)	平均風速 (m/s)	稼働率 (%)
4月	393,953	5.6	98.3
5月	238,301	4.7	92.4
6月	147,508	4.0	96.9
7月	159,901	3.5	99.6
8月			
9月			
10月			
11月			
12月			
1月			
2月			
3月			

## グリーンファンド秋田理事会報告

2019年7月29日、第2回グリーンファンド秋田の理事会を行いました。

主な議案は、2019年度第1四半期決算報告の承認、「おだやかな革命サミット」への協賛と参加、東日本復興支援祭りへの協賛と参加、象潟花火大会への協賛、夢風ニュース発行計画などです。

第1四半期の売電売り上げは、計画比92.0%、前年比78.0%でした。風況が良くなかった為、計画比を下回りましたが、風車は大きなトラブルもなく順調に稼働しています。

## 生活クラブ組合員リーダーツアー報告 ①

2019年7月20日(土)21日(日)、生活クラブの首都圏4単協の組合員リーダー27名が、秋田県にかほ市と山形県遊佐町で交流や視察を行いました。ツアーの様子を2回に分けて報告します。今回は、7月20日の様子です。

### ○生活クラブ風車「夢風」の見学

秋田空港からバスで1時間あまり、にかほ市の生活クラブ風車「夢風」に到着しました。

はじめに、グリーンファンド秋田の代表理事で生活クラブ神奈川の専務理事の半澤さんより、挨拶と概略の説明を頂きました。

続いて、生活クラブ風車の運転管理、保守管理業務を担っていただいている株市民風力発電の電気主任技術者の高橋さんと黒谷さんに、風車の説明を頂きました。

黒谷さんからは、風車の中に入って発電の仕組みや電気の流れについてお話頂き、本物の風車のボルトも見せて頂きました。

高橋さんからは変電所で風車の発電機で発電された1400Vの電気を6600Vまで昇圧して電線に流す仕組みのお話を伺いました。



右から、高橋さん、半澤さん、黒谷さん

組合員からは、近くで本物を見られた。やっと会えた。との感想がありました。ただ、風が弱く、風車は回っていなかったのが残念との声もありました。



今回も、厳選なるジャンケンの結果、生活クラブ千葉の宮本順子さんが、ナセルの上に登られました。宮本さんからは、「最高でした！一番の思い出です」との感想を頂いています。

←ナセルの上から手を振る宮本さん



ツアー参加者一同

### ○バーベキュー交流会

芹田自治会、にかほ市役所、夢風ブランド開発生産者連絡会、生活クラブとのバーベキュー交流会を芹田自治会館前の広場で行いました。



芹田自治会の竹花会長

はじめに開会挨拶を、生活クラブ風車「夢風」の地主である芹田自治会の竹花勲会長俊哉生活クラブ神奈川の半澤彰浩専務理事より行いました。続いて、ご来賓を代表して、にかほ市長の市川雄次様にご挨拶を頂きました。夢風ブランド開発生産者の伊藤製麺所の伊藤実様より乾杯のご挨拶で交流会がスタートしました。歓談の後、にかほ市副市長の本田雅之様よりご挨拶を頂き、にかほ市企画調整部長の佐々木俊哉様より職員のご紹介を頂きました。続けて、法政大学人間環境学部教授の西城戸誠様よりご挨拶を頂き、夢風ブランド開発生産者連絡会の生産者の方、芹田自治会の紹介を頂きました。最後に、生活クラブ組合員による歌「白 WINDMILL」(松田聖子「青い珊瑚礁」の替え歌)の合唱です。竹花会長に指揮をいただき、会場はおおいに盛り上がりました。

テントの下のテーブルには、市役所の方が焼いてくれた岩ガキと由利牛や芹田の方の手作りの漬物が並び、それぞれのテーブルで話が弾みました。組合員からの感想では、「芹田地区の皆さんに温かく迎えて頂き本当にありがたかったです。これからもこの関係を濃くして継続していくことが大事」「芹田地区の方との交流は、遠い親戚の人に出会った感じでした。長く続けていけたらと思いました。」などとても良かったという声が多くありました。





前列右から5人目、にかほ市長市川雄次氏

## コラム コスト低減がすすむ太陽光発電

太陽光発電の日本での導入量は、2018年12月末時点で約48ギガワットに達し、5年間で約5倍へ急拡大しました。資源総合システムの予測では、太陽光パネルを含めた太陽光発電システム全体のコスト低減により、2030年には約150ギガワットの導入が可能、発電コストは1キロワット時当たり5円を下回り一番安い電源となるといいます(下図)。さらに、住宅での自家消費型システムの普及、電気自動車充電や電力系統ネットワークの整備が進めば、2030年には国内総電力需要の15%に相当する年間約1500億キロワット時の電力供給となり、政府の目標である7%の倍の導入が可能になるという。

また、ブルームバーグ・ニューエナジー・ファイナンスの予測では、2018年～50年に、世界の発電設備の新設に11.5兆ドルの投資が見込まれており、その8割近くを風力と太陽光発電が占める。その結果、2050年には、世界の発電量の64%が再エネに切り替わる。日本でも、2025年頃を境に太陽光の新設コストが石炭火力の新設コストを下回り、20年代後半には電気自動車の導入が大きく増えガソリン車よりも割安になるという。

(文責 事務局 鈴木)

